

Our Hour 淡路島分科会

代表 地白 勇

Our Hour 淡路島分科会では、淡路島検定作成に向けて、伊勢志摩にヒントを求め、ご当地検定「お伊勢さん」の実施から観光ガイド事業へと発展させた伊勢神宮界隈を視察しました。観光ガイドは、現地観光協会がボランティア形式を採用しており、伊勢市商工会議所主催で民間運営の観光案内人が有料でサービスを提供しています。利用者は、個人や団体など、伊勢神宮参拝初心者からリピーター、国内外・老若男女を問わずニーズが高いとのこと。伊勢神宮(外宮・内宮)以外にも、駅周辺には街あるきガイドの任意団体が複数あり、活発な活動が参考になりました。

後日、外宮でお世話になったガイドの方が伊勢川崎町を紹介するNHKの番組に出演されていました。先進地事例の訪問先や御縁のあった方々を全国放送で目にした事は、自信と確信につなげられる出来事でした。



▲ 伊勢神宮のガイド付き参拝



▲ 登録12年のベテランガイド(左)

環境とエネルギー分科会

代表 村田 泰志

環境とエネルギー分科会は、3E研究会と名付け、environment(環境)、energy(エネルギー) ecology(エコロジー) 3つのEをテーマに活動をしています。

淡路島内にある2つの燃えるごみ処分場と1つの粗大ごみ処分場、3市それぞれにある、資源ごみ分別所をそれぞれ見学し、燃えるゴミ、燃えないゴミ、資源ごみはどのような経路を辿り、最終的にはどのように処分されるかを調査しました。この活動によってそれぞれの処分場にある問題点や、ごみそのものの問題点が見えてくると考えています。そしてその問題点を知る事により、10年後の淡路島のゴミ処理のあるべき姿を見だし活動していきます。

また、第8期淡路地域ビジョン委員会の分科会から引継いだナルトサワグクの生態や有効な処分方法などの取組についても研究します。



▲ 南あわじ市中央リサイクルセンターの視察

全体の活動

全体会の開催

平成30年6月16日(土)に、第3回全体会を開催し、投石文子専門委員から「淡路島を知る～淡路学から～」と題して、淡路地域の歴史、産業、文化など、淡路に住んでいても知らない貴重なお話をいただきました。また、これらの地域資源をビジョン委員会で国内外に発信することができないかご提案いただきました。

平成30年10月6日(土)には、第4回全体会を開催し、NPO法人淡路島SPO支援センター代表理事兼事務局長の李貫一氏から、「暮らし続ける幸せの島・淡路島を目指して」と題してご講演いただきました。日本が課題先進国であることから、地域の問題を解決するためには、課題を自分事として捉え、コミュニティビジネスを地域づくりに活用することなどについてご説明いただきました。



▲ 第3回全体会講演の様子



▲ 第4回全体会講演の様子

環境立島あわじ

～人と自然の豊かな関係をきずく“公園島”へ～

淡路地域ビジョン委員会Facebook

検索

発行/淡路地域ビジョン委員会

事務局 兵庫県淡路県民局県民交流室未来島推進課

〒656-0021 兵庫県洲本市塩屋2-4-5 TEL.0799-26-2125 FAX.0799-24-6934
E-mail awajikem@pref.hyogo.lg.jp



30淡路②-012A4

第9期淡路地域ビジョン委員会

平成30年度

活動の記録

淡路地域ビジョン委員会では、「環境立島あわじ～人と自然の豊かな関係をきずく“公園島へ”～」という目標を実現するために、4つの実践目標を掲げ、住民自らが淡路島の未来はどうあるべきかを考えながら、さまざまな活動に取り組んでいます。

実践目標 1

誰もが役割を持ち
地域の宝が生きる
島づくり

実践目標 2

個性と活力にあふれ
新たな価値を
生み出す島づくり

実践目標 3

自然とのつき合い方を再考し、
その恵みに支えられた島づくり

実践目標 4

経済、社会、環境が
調和し、命をつなぐ
島づくり

写真提供:(一社)淡路島観光協会

「第9期淡路地域ビジョン委員会スタート!」

第9期淡路地域ビジョン委員会の応募から任期の上限が3期6年となり、75名中35名が新規のビジョン委員としてスタートしました。最年少24歳、最年長87歳、平均年齢は54.7歳という構成になりました。それぞれの委員が個性的な9分科会で有意義な活動をされています。各分科会の代表は、企画部会でも活発に意見を交わしています。

淡路くにうみ夢フォーラムでは、「淡路島の人物から描く淡路地域の将来像」をテーマにグループワークを行いました。淡路島の偉人や多才な方々のお名前が次々と出て盛り上がりました。淡路島で生まれた人、移住してきた人、活躍した人、実業家や政治家に作家に芸能人と近所のおばあちゃんのお名前も!それぞれ今の淡路島を創ってきた方々です。これらの人物の生き様や功績をヒントに、グループワークで描いた将来像は、淡路島の発展につながる人材育成に役立つことと思います。

そして、これからの淡路島を創っていくのは私たちです。



第9期淡路地域ビジョン委員会
委員長 小田 美根子

分科会の活動

教育・文化分科会

代表 西野 孝司

教育・文化分科会は15名で活動を始動し、6月に目標の設定と年間計画を決定しました。

目標は、「様々な体験活動を通して、児童・生徒に生きる力を育てる」です。具体的な活動内容は、①親子漁業体験、②プログラミング教室の開催、③歴史学習の出前講座の3つとしました。漁業体験では、生穂港から漁船で大阪湾に出て親子で魚釣り体験をする予定でしたが台風の影響で中止となり、港の岸壁で魚釣りに内容を変更して実施しました。



▲親子漁業体験



▲プログラミング教室

プログラミング教室は、プログラミング教育が2020年から小中学校で教育課程に組み込まれるので、その手助けにと計画しました。淡路3市の会場を回り、年間7回実施しました。大勢の小中学生が親子で参加し、一生懸命パソコンを操作していました。

防災分科会

代表 原 竜也

2018年の夏、全国各地で連日の猛暑、この夏の記録的な豪雨、そして強烈な台風、洪水や土砂災害、地震とは違う被害、防災の大切さを身に染みて感じる夏でした。災害はいつ起こるか分かりません。必要以上に怖がることはありません。ただ、あらゆる災害を想定して、できる限りの準備は必要です。

淡路島の観光地や施設を見学する中で「もしも、災害が起きたとき」こうすれば必ず助かる、という行動をとったらいいか、ということに対しては正解がありません。正解がないから少しでも判断の助けになればと、防災分科会では「命を守る」防災本(淡路島編)製作活動を実施しています。



▲奇跡の星の植物館の見学



▲阿倍野防災センター視察研修

福祉分科会

代表 安居 道彦

私たち福祉分科会は、「認知症をささえる家族の会・にじの会」の活動を通じて、認知症の啓発や、誰もが気軽に集えるサロンやカフェなどの「居場所づくり」に取り組んでいます。1994年「国際アルツハイマー病協会」(ADI)は、世界保健機関(WHO)と共同で毎年9月21日を「世界アルツハイマーデー」に制定し、9月を「世界アルツハイマー月間」と定め、全国的に様々な取り組みを行っています。私たちは平成30年9月15日に研修会として兵庫県農業会館での「世界アルツハイマーデー記念講演会」に参加し、「認知症になっても“当たり前”に生きてく」ことについて学び合いました。



▲「世界アルツハイマーデー記念講演会」への参加



まちづくり分科会

代表 上宮 平

まちづくり分科会では、移住希望者に向けた空き家の情報や新規就農支援等の情報を発信することを検討し、フェイスブックなどSNSの基礎的な活用方法を勉強する「SNS活用セミナー」を実施しました。

また、淡路島内でまちづくりに取り組んでいる地域団体等が集い、それぞれの地域で行っている活動の発表や伝統芸能等の様々なまちづくり活動を魅せ合うことで、登壇者及び参加者間の交流を深め淡路島の未来につながる「第1回まかせよ!まちづくり!」フォーラムを開催しました。



▲「SNSセミナー」の開催



▲「第1回まかせよ!まちづくり!」の開催

淡路島のビーチクリーンを通した溶け合う場作り分科会

代表 山下 勉



▲「そりや馬車をつくるワークショップ」の開催



淡路島のビーチクリーンを通した溶け合う場作り分科会では、8月にビーチクリーンイベントを実施しようとしたが、台風20号の接近により中止となりました。3月には、「馬とビーチクリーンのためのそりや馬車をつくるワークショップ」を開催し、手探りで検討を重ねながらそりづくりと小型馬車づくりを行うなど、来年度の本格的な実践に向けて動き出しました。

農林水産分科会

代表 楓 るみ子

農林水産分科会では、耕作放棄地や後継者不足などの問題がある中で、農林水産業の活性化を推進する活動を行っています。今年度は、淡路島国営明石海峡公園で開催された「花と緑のワークショップ」にブース出展し、放置竹林の竹を農業に活用する試みとして、竹パウダーを肥料に使い栽培した淡路産コシヒカリの試食や間伐竹材を加工した竹工芸品の展示・竹遊び体験等を実施しました。

また、2月には学識経験者並びに淡路に移住して就農している方々から成功体験や失敗したこと、苦労したことなどの講話の後、参加者全員で意見交換を行う「じっくり語ろう淡路島の農業」フォーラムを開催しました。



▲「花と緑のワークショップ」へのブース出展



▲「じっくり語ろう淡路島の農業」の開催

鳴門海峡の渦潮の普及啓発分科会

代表 関口 功



▲「鳴門海峡の渦潮学習」出前講座



鳴門海峡の渦潮の普及啓発分科会は、淡路島の未来を担う子供たちを対象に、島内の小学校4校・約135名に「渦潮海峡の渦潮学習出前教室」を実施しました。兵庫・徳島両県で鳴門の渦潮を世界遺産に登録しようと推進していることを子どもたちにも知ってもらおうと出前講座を実施しています。